ろばと野草

VOL.105

「めじろ」NY（はだしの邑）

１０５号　目次

・事業所紹介　はだしの邑通信　ろばの家だより
　　百合の樹通信　グループホームより
・ろばと野草の会・合同新年会
・それぞれの声
・「精神障がい者の支援について」　理事長　瀬戸英治
・ありがとうございました

特定非営利活動法人　ろばと野草の会　　２０２６年３月１日発行

はだしの邑通信

〒231-0843
横浜市中区本郷町 1-2　小倉ビル 2 階
TEL/FAX：　045-625-2509
MAIL：hadashi85@yahoo.co.jp

今号では最近のはだしの邑の様子をお届けします。

箱折り作業（新しいお仕事です！！）

2025 年 11 月 27 日、そごう横浜店地下 2 階に「萬珍樓茶房」がオープン。
こちらのお店で取り扱うお土産用商品の箱折りの依頼を受け、作業させていただいています。みんなで協力し合い、次々と箱が出来上がる様子は圧巻です！

駄菓子詰め作業

★作業手順★
1．駄菓子をカゴに入れる
2．カゴから駄菓子を取り出し数を数える
3．袋の厚みが均等になるようにバランスよく駄菓子を詰める
4．袋に封をする

～作業の感想～
・どの作業もおもしろいですよ～！！（Ｔさん）
・仕事がいっぱい（笑）（Ａさん）
・駄菓子５０個入が大変！（Ｉさん）
・ちょっと難しいところがあったけど今は大丈夫！でも、駄菓子は細かい作業でちょっと苦手（笑）（Ｍさん）

はだしの邑忘年会

2025 年 12 月 26 日（金）、17 名でしゃぶ葉にて忘年会を行いました。美味しいお料理に囲まれ、1 年の労をねぎらい、皆で楽しいひと時を過ごすことができました。

新しいスタッフの紹介

昨年 11 月に入職しました津田佐也加と申します。
利用者さんと一緒に作業をしたり、お話しをしたりすることがとても楽しく、毎日素敵な時間を過ごさせていただいております。
これからもどうぞよろしくお願いいたします。
（＾０＾）似顔絵は恒例の 24 村画伯が描いてくれました！

ろばの家だより

231-0025
横浜市中区松影町3-11-2三和物産ビル3F
Tel/Fax 045－671－9083
e-mail:robanoie@muh.biglobe.ne.jp

2025年10月27日 ろばの家にて米寿＆喜寿をみんなでお祝いをしました。

Sさん(米寿)、Kさん(喜寿)、Tさん(米寿)

☆お祝い寿司を召し上がっています☆

☆Tさん&Sさんインタビュー☆

何とか88歳までなりました。これからも頑張っていきたい。88歳までこられたのは毎日通所して精進してきたからです。(Tさん)

ろばの家にきて31年になりました。目標は93歳まで生きたい。(Sさん)

Q 日課や趣味は何ですか？

A.毎日 、書き物をしている。(Tさん)

読書や水戸黄門をみること。(Sさん)

Q 若さのひけつは何？

A. 毎日仕事があってありがたい。毎日仕事をしていること。一日一日を頑張って生きていくこと！！(Tさん)

規則正しい生活を送っている(Sさん)

2025年11月26日 川越日帰りバス旅行

集合写真

「懐かしい電車がみられて良かった」

川越で散策・食べ歩き

利用者さんからの感想

・一日中楽しめた。時間が足りなかった (Tさん)

・電車の博物館や川越の古い建物など魅力的だった。(Mさん)

・川越の食べ歩きが最高だった。(Nさん)

・車中からスカイツリーが見えたり刺激的だった。(Tさん)

・川越は今人気スポットだったので歩いているだけでも楽しかった。(Yさん)

百合の樹通信

〒231-0033
横浜市中区長者町 4-10-1　パルム長者町 201
TEL：045-211-4081　FAX：045-211-9030
E-mail：yurinoki@ray.ocn.ne.jp

日帰りバス旅行

2025.11.26（水）、百合の樹、はだしの邑、ろばの家の利用者、職員合わせて、22 名で、大宮鉄道博物館と小江戸川越へ行ってきました。天気も良く、高速道路からは青い海の向こうに、真っ白な富士山が見え、ポストカードのようでした。

皆さんの感想です

・川越が思った以上に人がいてびっくりした。お昼は鉄博でヒレカツサンドを食べたがやっぱり思った以上にボリュウムがあって満足した。（A.R）

・バス旅行は楽しかった。天気は晴れて気持ち良かった。でも、去年と比べて一泊二日旅行がなかったのは寂しかった。（S.K）

・バスガイドさんが付いて丁寧に説明してくれて良かった。（いなばあの白うさぎ）

・楽しかった。（お）

・いろんな電車が見られてよかった。（T.M）

新入職員紹介

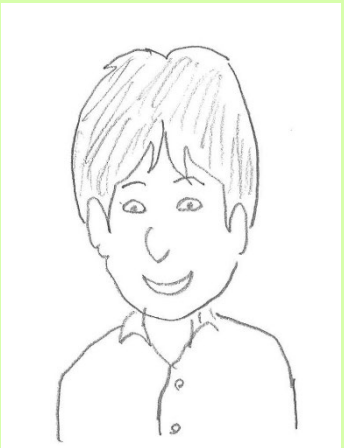
初めまして高橋洋三と申します。10 月 15 日から、【ろばと野草の会】百合の樹でお世話になっております。

パソコンも得意ではなく、これまでスマホすら持ったことがないのですが、職員をはじめ利用者の皆様に、親切かつ丁寧に指導いただいております。

入職後スマホを持ち、これからのＩＴ社会に遅ればせながら追いつければいいなと思います。

今年に入り体重が 75 kgまで増えスポーツセンターにて体を動かしてダイエットに励んでおりますが、いっこうに減る兆しがありません。お菓子をなるべく控えなければとチョコレートを頬張りながら考えております。

不束者ですが、これからよろしくお願いします。



絵：元利用者の A さん

グループホームより

GH 見晴

12/20（土)、GH 見晴ではクリスマス特別メニューの夕食会が開催されました。オーブン丸焼きチキン、ハート形イチゴトッピングのショートケーキなど非常勤 B さんの陣頭指揮（！）のもと、ご馳走を皆さんで作っていただきました。身も心もポカポカになりました。

こもれび

88 歳おめでとうございます。

100 歳まで
ろばの家に
通います

入居者の皆さんより、
「おめでとう。」の言葉と拍手。
職員より、大好きなお寿司と
柔らかいお肉のお祝い膳で、88 歳をお祝いしました。

ベイサイド西之谷

1 月いっぱいで青山が退職ということで入居者の皆さんの声掛けにより 1 月 7 日に「おつかれさん会」が開かれました。「送別会」というと悲しくなってしまうからと「おつかれさん会」という名前にしてくださったそうです。青山のホームでの勤務はあまり長くはありませんが、それ以前に「ろばと野草の会」で知り合った十数年前の思い出話なども語られ、心温まるひと時をみなさんと共に過ごさせていただきました。（青山）

ごあいさつ

「ろばと野草の会」にお世話になってから気が付けば 17 年もの月日が流れていました。その間にはたくさんの方々との出会いがあり、別れもありました。

「ろばの家」では驚くほど忙しくいつもバタバタしていましたが、みんなと笑い合っていた毎日だったと記憶しています。グループホームでは入居者のみなさんが優しく、落ち着いて仕事をさせていただけましたが、一人でいる時間が長くちょっぴり寂しく感じたこともありました。

こうやって長く仕事を続けて来られたのは、支えてくださったみなさまのおかげと感謝しています。ありかとうございました。

青山法子

ろばと野草の会・合同新年会

2026年1月14日（水）不老町地域ケアプラザにて、合同新年会が開かれました。利用者・入居者39名を含む、職員・ボランティア・役員、総勢67名の皆さんが参加されました。

料理のメニューは、アツアツのグラタン（焼きたてを食べてもらいたいとの思いがたくさん詰まっています）、ミートローフ（うずらの卵入り！）、牛すじカレー、やわらかいお餅入りのお雑煮（人参が花形でした！）、ごはん、サラダ、ショートケーキ（スポンジから手作りです！）、みかん。

各事業所の心のこもったお料理を、お腹一杯いただきました。

ケーナ演奏（百合の樹OB・Aさん）

出番待ちの天野さんは、雰囲気もがらりと変わり、一瞬、誰だか分らないほどでした。心が異国へ飛んでいく音色でした。

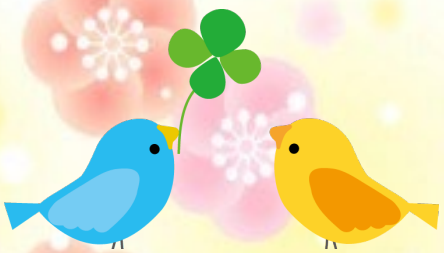
講談　「縛られ地蔵」（にににさん）

見台（きれいな背表紙のついた手作りの台本が置いてありました）、拍子木も用意され、何が始まるのかワクワクしました。張りのある声に、会場中が引き込まれていました。

今年は、躍動する午（うま）に、生命のエネルギーを表す丙（ひのえ）が合わさった、勢いのある年。新しいことや、あきらめかけていたことに挑戦すると良い結果につながると言われているそうです。皆様にとりまして良い年になりますように・・・

「Aか？Bか？」クイズ

“横浜に住んだことのある人なら誰でも答えられる問題“とのことでしたが、いきなり、一人勝ちで一等賞が決まり、ドキドキの展開となりました。「えっ？そうなの？！」と皆さん笑って脱落していく姿が印象的でした。

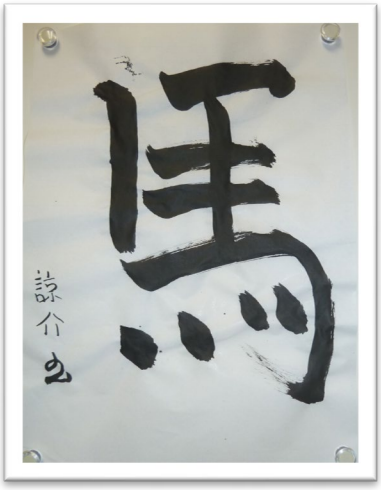


～それぞれの声～

それぞれの声は、利用者の方々の自由な投稿の場です

「焼うどん」 F.A さん（ろばの家 OB）

「風」 O さん（百合の樹）



「馬」 K さん（百合の樹）

塗り絵 K.A さん（ろばの家）

「ろう梅」 さ十し（はだしの邑）

精神障がい者の支援について

理事長　瀬戸英治

最近、北海道の「べてるの家」の創設者である向谷地生良さん（北海道医療大学名誉教授）と久しぶりに話をする機会があった。向谷地さんは「べてるの家」を立ち上げた当初は利用者との会話ができず悩んだという。しかし支援者（ケースワーカー）という衿を脱いで一人の弱さを持った人間として向き合ったとき、それまで自らのことを語らなかったメンバーたちが語り始めるという経験をし、そのことから当事者研究という方法を考えついたと話している。

この経験は、最近私が読んだフランスの哲学者ジャック・ランシエールの「無知な教師」（1987 年）という本の主張と通じている。ランシエールは教育という場において、教師と生徒が与える側と受ける側という関係性の中では、本当の知性は育つことなく、教師が自分も無知なものとして生徒と同様になるとき、生徒自らが各々に応じた知性を発揮するというのである。

不思議なことに前掲のランシエールより「べてるの家」の設立は早い。しかし、まさしくランシエールの主張を「べてるの家」は当事者研究で行なっていたことになる。

考えてみれば、本来精神障がいとは、精神病等によって通常の社会生活が営めなくなることを指す。それは障がい者単独だけで起こることよりも、対家族、対友人、対社会とのぶつかり、拒絶され、傷つくことによって引き起こされる。精神障がい者はいつも支援の対象であり、指導を受ける側に立たされている。その関係性から抜け出ない以上、本当の支援はありえないと思う。

ろばと野草の会では、以前から「べてるの家」に注目し、当事者研究を奨励してきたがうまく根付なかった。その大きな原因は、ランシエールの指摘のとおり、私を含め支援者する側が支援者という枠から出ず、メンバーを支援されるものという関係性でしか見ていなかったことにあるように思える。

そのことを踏まえれば、当事者研究という方法論を取らなくても、私たちはメンバーと同じ地平に立つことは可能だろう。まずは日常の中でメンバーの話を聞こう。聞き出すのではなく、話し出すのを待つこと。そのとき決して、話したことを否定しないこと。指示しないこと。辛かったこと悲しかったことを話すならば、「辛かったね」「大変だったね」と共感の言葉をかけること。もちろん嬉しかったことを話したならば、「良かったね」と思いっきり言うこと。すなわち自分と同じ弱さをもった人間として付き合うことに他ならないだろう。

ありがとうございました。

（二〇二五年十月～二〇二六年一月）

会費

十人の会員の皆様からいただきました。

寄付金

十二人及び五団体の皆様からいただきました。

事業所寄付金・献品

就労継続支援Ｂ型事業所
ろばの家
百合の樹
はだしの邑
に直接いただいております。

皆様からの会費・寄付金・献品は、法人及び各事業所の活動の一部に充てられております。
今後とも、皆様のご支援をお待ちしております。

編集後記

◇マフラーを　している犬は
寒いのか（にこにこ）

◆池の中　ふるえる小鳥
2月なり（にこにこ）

ろばと野草　第一〇五号
【発　行】二〇二六年三月一日
【発行者】特定非営利活動法人
ろばと野草の会
理事長　瀬戸英治
【編　集】青山法子　葦原果戈里
笠間夕里　川﨑圭子
田口環　西村佳三
津田佐也加
【題　字】佐々木和美
【発行所】ろばと野草の会事務局
〒二三一―〇〇二六
横浜市中区寿町三－十－十三
金岡ビル三〇一
ＴＥＬ　〇四五－二六四－八六〇七
ＦＡＸ　〇四五－二六四－八六〇八
【Ｅメールアドレス】
robatoyaso@galaxy.ocn.ne.jp
【ホームページ】
http://robatoyasou.com/
【印刷所】就労継続支援Ｂ型事業所
百合の樹